



No.115

2002-2-15

日本教育工学会ニューズレター

Japan Society for Educational Technology

事務局:〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5 森ビル(視聴覚ビル) 2階
電話/FAX:03-5251-2133 e-mail:jet-office@japet.or.jp
日本教育工学会ホームページ http://www.japet.or.jp/jet/

ISSN 1340-9913

第18回通常総会とシンポジウムの開催について

第18回通常総会とシンポジウムを以下のように開催致します。予めご予定ください。

記

1. 日時 2002年6月8日(土)

午前: シンポジウム(その1) 第18回通常総会

昼: 理事会・評議員会

午後: シンポジウム(その2)

2. 会場 東京工業大学百年記念館 (東京都目黒区大岡山2-12-1)

東急目黒線・大井町線 大岡山駅下車 徒歩1分

3. 総会の議事

1) 第1号議案 2001年度(2001.4.1-2002.3.31)事業報告および収支決算承認の件

2) 第2号議案 2002年度(2002.4.1-2003.3.31)事業計画案および予算案承認の件

尚、第18回全国大会は、11月2日(土)、3日(日)、4日(休日)の3日間、長岡技術科学大学で開催します。

本号目次

第18回通常総会・シンポジウムのお知らせ----	1	夏の合宿研究会の案内-----	7
会費納入のお願い-----	2	論文投稿件数と採択率の推移-----	8
ショートレター増刊号の案内-----	3	投稿規定-----	9
研究会の案内(3/26)-----	4	第9期第4回理事会議事録-----	10
研究会の発表募集(5/25)		第9期第5回理事・評議員会議事録-----	11
研究会の今後の予定-----	5	大会論文集の購入/学会日誌等-----	12
冬の合宿研究会の案内-----	6		

2002年度会費の納入のお願い

年会費は原則として前払いとなっております。
同封の郵便振替用紙により、2002年度(2002年4月1日～2003年3月31日)の会費をご送金下さるようお願い致します。

年会費の年額は右記のとおりです。

正会員	9,000円	入会金
准会員	5,500円	1,000円
学生会員	5,500円	
特殊会員	10,000円	
維持会員	50,000円/口	

会員種別と受けるサービス

会員種別	年会費	論文誌	学会誌	英文誌	JET
正会員	9,000円	1	1	1	1
准会員	5,500円		1		1
学生会員	5,500円	1	1	1	1
特殊会員	10,000円	1		1	1
維持会員	50,000円	3	3	3	3
名誉会員	無料	1	1	1	1

会費請求額は、ラベル紙の右下に示した金額となります。ただし、会員種別が変更になった場合は上記の年会費を参照の上、ご送金下さい。

(注)

論文誌：和文年4回発行

学会誌：ショートレター特集号として年1回発行

英文誌：英文年1回発行

JET：ニューズレター年6回発行

学生会員について

- 学生会員は正規の入学者で、**研究生は該当しません。**
- 学生会員の所属機関は、**必ず大学名**となります。所属機関が大学以外の場合には、正会員または准会員となります。
- 学生会員は、**資格条件**(大学名、学部名/研究科名、指導教官名、卒業見込/修了見込の年月)を必ず連絡してください。
- 学生会員として資格条件をご連絡いただかないで、年会費5,500円を納入された方は、取りあえず准会員に変更させていただいております。

2002年度研究報告集の予約購読(年額3,500円)について

本学会では、研究会を年6回開催しており、研究報告集を発行しております。この研究報告集は、事前に代金3,500円(6冊分)を送金された会員に配布しています。

研究会当日会場で受領できます。不参加の場合は研究会終了後、郵送されます。

是非、事前に3,500円をご送金下さい。年度の途中でご送金いただいた場合は、次に開催される研究会終了後に、それ以前の報告集をまとめて郵送します。

ショートレター増刊号の論文募集のお知らせ
日本教育工学会誌 / 日本教育工学雑誌 Vol.26, Suppl.の発行
論文受付締切：平成 14 年 3 月 1 日（金）編集委員会事務局必着

日本教育工学会誌/日本教育工学雑誌 Vol.26, Suppl.は、年 1 回発行されるショートレター特集です。ショートレターの投稿規定および原稿執筆の手引きを参照の上、奮ってご投稿下さい。

1. 投稿原稿は、図表を貼り込み刷り上がりイメージで提出して下さい。
2. ショートレターは、刷り上がり 4 ページまたは 6 ページのどちらかです。5 ページは受け付けません。
3. 締切前に投稿されたものから順次、査読致します。
4. ショートレターでは、筆頭著者(ファースト・オーサー)は本学会会員であることが条件です。あるいは、筆頭著者が投稿時に入会手続きおよび会費等を納入することが必要です。なお、各会員は本ショートレターは年 1 編に限り投稿できます。
5. 平成 14 年 12 月に発刊の予定です。

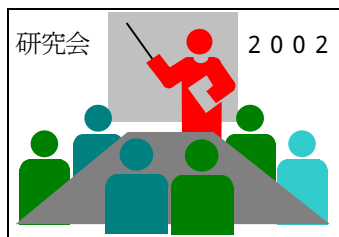
ショートレターの内容については、例えば、以下のような内容が考えられます。

- ・学会の大会や研究会で発表して、評価を得た内容
- ・教育実践をベースにした知見を研究的にまとめた内容
- ・教育工学研究としての速報的な内容
- ・今後発展する内容で、中間報告的な内容
- ・卒業論文や修士論文等として学生がまとめた内容、など

なお、ショートレターで掲載された論文をベースに、加筆修正してまとめたものを、学会論文誌に投稿することができます。

投稿論文の送付方法：普通郵便(書き留めにはしない)、宅配便、持参とする。

〒152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1 東京工業大学教育工学開発センター内
機械系研究実験棟(石川台地区)4 階
日本教育工学会 編集委員会
(Tel. 03-5734-3234 Fax. 03-5734-2994)



研究会の開催

テーマ 授業研究と教育評価

日時：2002年3月2日(土)

会場：宮城教育大学(仙台市青葉区荒巻字青葉) 2号館2階(229番教室)

開催担当：本間明信(宮城教育大学)

研究会への参加は、当日受付にて同研究会の報告集(1000円)をご購入いただければ、一般の方でも可能です。

9:30 受付開始 9:55 開会

プログラム：

発表時間：発表1件につき、20分(発表15分、質疑5分)の持ち時間です。

10:00~11:20 -----

(1) 「小・中学校教師のコンピュータ利用に関する意識調査(2)」

園屋 高志(鹿児島大学教育学部)

(2) 「小学校における電子メールの特性と利用法の理解を目的とした授業の実践」

大川 英智(青森県名川町立剣吉小学校)、宮古 和行(青森県名川町立剣吉小学校)、園屋 高志(鹿児島大学教育学部)

(3) 「中学生のインターネット使用時の学習過程」

小岩 寿之(武蔵野市立第五中学校)、前田 恵三(東京工業高等専門学校)、中野 靖夫(上越教育大学)

(4) 「小学校におけるコンピュータ活用授業の類型化と、指導計画に関する検討」

宇都宮 浩(宮城県延岡市立東海東小学校)、中山 実(東京工業大学)

11:20~11:30 ----- 休憩 -----

11:30~12:10 -----

(5) 「異なる知識の組み合わせによる情報モラル指導法の開発 - 普通教科「情報」試行授業での実践 - 」

玉田 和恵(東京経営短期大学)、江本 理恵・松田 稔樹(東京工業大学)

(6) 「普通教科「情報」の授業設計・教材開発手法の検討~東京工業大学工学部附属工業高等学校における「情報B」の授業実践を通して~」

江本 理恵・松田 稔樹(東京工業大学)、萩生田 伸子(埼玉大学)

12:10~13:00 ----- 昼食 -----

13:00~14:20 -----

(7) 「表現活動における協同作業の精神的側面」

佐藤 麻理子(宮城教育大学大学院)、本間 明信(宮城教育大学教育臨床総合研究センター)

(8) 「動物教材の作成と活用」

久良 俊輔(上越教育大学学生)、鶴本 修一、小林 明(上越市立春日小学校)、中野 靖夫(上越教育大学)

(9) 「高等学校情報科「モデル化とシミュレーション」に活用できる教材の開発」

野村 泰朗(埼玉大学教育学部)、松田 稔樹(東京工業大学大学院社会理工学研究科)、三田 純義(小山高等専門学校)

(10) 「OHPを用いたプレゼンテーション活動を取り入れた大学授業の実践」

須曾野 仁志(三重大学教育学部附属教育実践総合センター)、下村 勉・織田 揮準(三重大学教育学部)

14:20~14:30 ----- 休憩 -----

14:30~16:50 -----

(11) 「教職課程における「情報化に対応した授業」設計の指導方法の検討」

石井 奈津子、松田 稔樹(東京工業大学大学院)

(12) 「教授者の意図に応じた提示情報の自動生成 二次関数を題材として」

佐々木 知子、松田 稔樹(東京工業大学大学院)

(13) 「一斉授業実施支援システムの開発と評価」

高橋 伸二(東京工業大学大学院)

(14) 「WWW上におけるユーザの興味傾向を分析するシステムの開発と評価 - ページ閲覧時間との関係について - 」

河野 かのり(東京学芸大学)、横山 節雄(東京学芸大学)、赤堀 侃司(東京工業大学)

(15) 「文書間の類似度に基づく論文検索システムの開発と評価」

八太 絵美(東京学芸大学)、福本 徹(東京工業大学大学院)、横山 節雄(東京学芸大学)、赤堀 侃司(東京工業大学)

(16) 高等学校におけるメディアリテラシー教育の実践的研究

山崎 悟(富山県立富山東高等学校)、小川 亮(富山大学)

(17) 小学校3年生における情報活用の実践力の育成に関する実践的試み

西守 哲男(新湊市立塚原小学校)、小川 亮(富山大学)

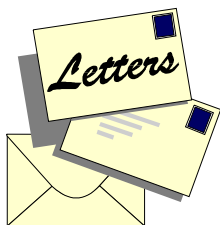
17:00 閉会 -----

会場へのアクセス

仙台駅前バスのりば(番のりば)から、市営バスで。

「宮教大行き」「青葉台行き」または「成田山行き」で宮教大前下車(約20分)、乗車料金220円

会場：正門を入れて目の前の建物(2号館)二階、「229番教室」です。



研究会の発表募集

教育のIT化とメディアリテラシーの育成

日時：2002年5月25日(土)
 会場：大分県立芸術文化短期大学(大分市上野丘東1-11)
 開催担当：三宅 正太郎(大分県立芸術文化短期大学)

募集内容：

新しい学習指導要領が本格実施され、教育・学習環境の本格的なICT技術による変革がもたらされています。その中で、教育内容の質的变化とICT技術による情報環境から適切に情報などを読みとり活用するメディアリテラシーの形成がこれまで以上に必要とされます。

本研究会では、21世紀の教育環境を見通して、これらの教育の実践的課題を見極めていく必要があると考え、テーマ設定を行いました。

なお、教育工学領域一般の発表も受け付けております。

応募：研究会のWeb Pageの「発表申し込みフォーム」より応募してください。なお、当該研究会の「発表申込状況」で申し込み者氏名が確認できます。

●申し込み締切：2002年3月22日(金)到着分まで。

締切後、応募者宛に3月29日頃に発表の採択結果を電子メールにて連絡いたします。また、採択者には執筆要項が電子メールにて送付されます。

原稿締め切りまでの期日が短いため、発表申し込み者におかれましては、事前に下記をごらんいただきますようお願いいたします。

1 原稿見本(原稿枚数は、発表件数で変動します)

<http://www.nime.ac.jp/EduTech/sippitsu/mihon6.PDF>

2 「キーワード一覧」(PDF形式)

<http://www.nime.ac.jp/EduTech/sippitsu/keyword.PDF>

原稿提出：2002年4月25日(木)必着。

原稿提出のない場合、自動的に発表取消となります。事務局からの催促など連絡はいたしませんのでご注意ください。

研究会レポート



1月26日(土)肌寒い曇天の中、熱い熱気に包まれた研究会が名古屋大学で開催されました。テーマは、「教育工学における研究方法」です。早い時間から教室は満席になり、椅子が追加されるほどです。発表10件について活発な質疑が行われ、その活気はパネルディスカッション「社会的構成主義アプローチとは何か：その実践と工学的研究方法論を問う」まで続きました。

(幹事：三尾忠男・早稲田大学)

研究会の今後の予定



会場では、発表者との質疑はもちろんですが、同じ関心をもった研究者・教育関係者が集まり、さまざまな方と意見交換する場としても活用していただいております。会員の皆様には、教育工学領域の研究の最新情報を入手されるだけでなく、ぜひ、発表して意見を求める場として利用ください。

5月25日(土) 研究会開催『教育のIT化とメディアリテラシーの育成』(大分県立芸術文化短期大学)

研究報告集年間購読の勧め



研究会の報告集は、会員・非会員に関係なく年間予約により購読できます。予約価格：年6冊、各研究会平均15件の研究発表で、年間合計約500ページほどになります。価格は郵送料込みで¥3,500です(当日売りは割高になります)。学会事務局(研究会事務局とは異なります)までお問い合わせください。

学会本部事務局(105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル)2階
 TEL/FAX：03-5251-2133 jet-office@japet.or.jp)

研究会事務局

今年度中に研究会事務に関わる組織・運営体制が変更となります。少しずつ新体制への移行を進めております。研究会でのご発表を予定されている会員各位におかれましては、スケジュールなどにご注意いただきますようお願い申し上げます。

日本教育工学会研究会事務局

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-12

メディア教育開発センター 研究開発部内

Facsimile 043-298-3476

e-mail: jet-branch@nime.ac.jp

お電話でのお問い合わせはご遠慮いただいております。

研究会の最新情報は、<http://www.nime.ac.jp/EduTech/> をご覧ください

日本教育工学会「冬の合宿研究会」開催案内

- 研究と実践を結ぶ研究方法論を学ぶ -

日本教育工学会の論文誌においても「教育実践研究における研究方法論」に関する特集を予定しているように、教育実践の場と研究者の視点を結ぶ方法論が注目されています。冬の合宿研究会では、開催地を雪の多い地方から遠州灘を望む静岡県浜松市に移し、論文では語り尽くせない、実践と教育を結ぶ上での工夫と問題点に迫る学びの場を創造したいと考えます。実践研究の最前線に立つ教育実践の研究者、特に若手の研究者の方々から多くの参加をいただきたいと思います。

日時：2002年3月16日（土）13：00～3月17日（日）12：00

会場：サンピア浜松（厚生年金施設）

浜松市東伊場2-14-1 http://www.kjp.or.jp/hp_71/

アクセス方法

JR 新幹線浜松駅で下車、タクシーに乗り「東伊場（ひがしいば）のサンピア浜松」と言ってください。10分弱、1,000円程度です。

詳細な場所の地図は以下にあります。

<http://map.yahoo.co.jp/pl?nl=34.41.39.1&el=137.43.16.9&width=500&height=500&sc=4>

対象：教育工学の方法論に関心のある若手の研究者、教育実践の研究者、研究的に教育実践を行う教師など（学会員以外も参加できます）

参加費：13,000円（予定） 資料代、宿泊ならびに懇親会費用を含む。

申し込み：日本教育工学会「冬の合宿研究会」申込ページよりお申し込み下さい。

日本教育工学会「冬の合宿研究会」案内

<http://edunts.shinshu-u.ac.jp/jet/winter.html>

申し込みフォーム

<http://edunts.shinshu-u.ac.jp/jet/20020316.html>

スケジュール：

□ 3月16日（土）

12：00 受付開始

13：00 問題提起 ～研究と実践を結ぶ研究方法論を学ぶ～
永野和男（聖心女子大学）

13：30 話題提供「これからの実践に期待すること」

司会：小川 亮（富山大学）

話題提供者：山西潤一（富山大学）上田信行（甲南女子大学）

柴田好章（名古屋大学大学院）

16：00 講演 「実践知と研究を結ぶ研究方法論」

藤岡完治氏（京都大学）

18:00 夕食

19:00～20:30 ナイトセッション

「実践と研究を結ぶ方法論を探る」

全参加者は以下の4つのグループに参加して討論します。

- 1) カリキュラム開発/教材開発と評価 (○山内・東原)
- 2) 教師の能力育成(その方法と方向)(○木原・柴田)
- 3) 研究成果の Portability と工学的蓄積 (○堀田・山西)
- 4) 工学のモデルから見た教育研究 (○池田・永野)

宿泊：サンピア浜松(厚生年金施設)

□3月17日(日)

9:30 パネルディスカッション

「教育工学の研究方法論は学校現場にどう寄与するか」

～前日のナイトセッションのまとめ～

司会：永野和男(聖心女子大学)

パネリスト：山内祐平(東京大学大学院) 木原俊行(大阪市立大学大学院)

堀田龍也(静岡大学) 池田 満(大阪大学)

12:00 終了

2002年度 日本教育工学会夏の合宿研究会 ご案内(第1報)

日時： 2002年8月17日(土)～8月18日(日)

会場： セントヒル長崎(公立学校共済組合長崎宿泊所)・・・予定

〒850-0052 長崎市筑後町4-10 tel.095-822-2251 fax.095-826-4732

長崎は、オランダと中国そして日本の文化が融合した異国情緒あふれる街です。
原爆祈念館が物語るように、平和へのメッセージを世界に発信する都市でもあります。
是非、皆さんで参加してください。
なお、詳しい日程につきましては、次号にてお知らせ致します。

問い合わせ先：

〒852-8521

長崎県長崎市文教町1-14 長崎大学教育学部 藤木卓、森田裕介

TEL 095-847-1111 内線：2400(藤木) 2352(森田)

FAX 095-847-0537

E-mail t-fujiki@net.nagasaki-u.ac.jp(藤木)

ymorita@i.edu.nagasaki-u.ac.jp(森田)

論文投稿件数と採択率の推移

編集委員会

編集委員会では、ほぼ毎月編集委員会会議を開催し、論文の受理と査読結果の判定および編集に関わる様々な処理を行っています。会員の皆様に、2001年における1年間の論文の投稿数や採択数等をまとめて、下記の表のように示します。

この統計が示すところでは、1年間で採択数が21編、返戻数と取り下げ数の合計が15編ですから、 $21/(21+15)=0.58$ となり、約60%弱の採択率と言えます。この採択率が高いか低いかは、会員の皆様の判断に任せますが、かなり妥当な数値と言えます。なお、この表は論文誌を対象にした統計であり、ショートレターは計算していません。年間に平均しておよそ40編のショートレターを採択し、論文誌ではなく、学会誌に掲載しております。当然ながら、ショートレターの採択率は、論文に比べて高くなります。

なお論文の査読は、会員の皆様のボランティアで行っており、著者は、査読結果にしたがって、最大2回まで論文を修正することができます。したがって、最大3回まで査読されることになり、きめ細かく査読を行っていると言えます。反面、査読期間が永くなるという問題点の指摘もあり、編集委員会ではもっと迅速な査読について、検討中です。

会員の皆様に、下記の表を参考にさせていただいて、編集委員会では多くの投稿をお待ちしております。言うまでもなく、論文誌は学会の顔であり、優れた論文を掲載することが学会にとって、重要な活動になります。

どうぞ、よろしく願います。

2001年	1月	2月	3月	4月	5月	6月
投稿数	2編 論文1 資料1	3編 論文3	3編 資料1 寄書1 英訳論文1	6編 論文6	4編 資料2 研究速報1 アブストラクト1	2編 論文2
採択数	1編	1編	1編	2編	3編	2編
返戻数	1編	2編	2編	4編	1編	
著者取り下げ数						
査読中						

2001年	7月	8月	9月	10月	11月	12月
投稿数	10編 論文7 資料1 寄書1 巻頭言1	5編 論文2 資料1 英訳論文2	3編 論文2 資料1	2編 論文2	4編 論文1 資料2 研究速報1	1編 論文1
採択数	8編	3編	1編			
返戻数	2編	1編				
著者取り下げ数		1編	1編			
査読中			1編	2編	4編	1編

日本教育工学会 投稿規定

1. 論文誌 / 英文誌への投稿

本会は、日本教育工学会論文誌を年4回、英文誌 Educational Technology Research を年1回発行する。

(1) 論文種別

論文 (Paper) 教育工学に関係のある独創的な研究結果、新規な方法・結果等で、信頼性が認められ、学問や教育工学の発展に役立つ内容を、順序立てて明瞭に記述したもの。10ページ以内を原則。

資料 (Technical Information) 教育工学に関する研究資料、研究成果を体系的にまとめたレビュー等で、会員に参考になる有効な情報をまとめたもの。10ページ以内を原則。

研究速報 (Letter) 教育工学に関する研究等の速報、新しい試みやその結果等を記述したもの。6ページ以内が原則。

寄書 (Short Note) 教育工学に関する意見、提言、討論等を記述したもの。6ページ以内を原則。

英訳論文 (Translation) 本学会論文誌に既に掲載された論文を英訳した英文。ただし、内容が論文と同一であること、理解できる英文であることが条件となる。

尚、掲載された研究速報、ショートレター(後述)を内容的に一層充実させて、論文あるいは資料に投稿できる。

(2) 投稿の条件

内容の主要な部分が、国内、国外の学会誌、機関誌、商業誌等に掲載、掲載予定、あるいは投稿中や投稿を想定していないこと。ただし、研究会、大会等の学術講演、国際会議等における口頭発表論文をまとめて投稿したものは差し支えない。論文の内容と記述が、他者の著作権や研究に関わる者の人権を侵害せず、研究上の倫理に反しないよう、十分に配慮されていること。

少なくとも、同じ分野の会員が十分理解できるように記述されていること。

著者の中に、少なくとも1名の本学会会員が含まれていること。

(3) 投稿原稿の取扱い

投稿原稿は編集委員会で査読し、次のいずれかに取扱いを決定する。

- A. 採録
- B. 軽微な修正を要する条件付採録
- C. 照会後再判定を要する条件付採録
- D. 返戻
- E. 論文としては返戻(論文の場合)

ただし、資料として上記A, Bの場合

条件付採録の場合、照会后5週間以上経過して再送稿されたものは、新規投稿原稿とみなす。

2. 日本教育工学会誌への投稿

本会は、和文の日本教育工学会誌をショートレター増刊号として年1回発行する。

ショートレター 教育工学に関する、実践的な研究成果、新しい試みやその結果等を記述したもの。新規性(オリジナリティ)は必ずしも高くなくても、実践研究の方法と成果が明確に記述されていること。4ページを原則(内容により6ペ

ージも可、5ページは不可)。

(1) 投稿の条件

投稿内容、著作権や研究に関わる者の人権への配慮、記述については、論文誌の投稿の条件(前述)に準じて執筆されていること。

筆頭の著者(ファースト・オーサー)が本学会の会員であること。あるいは、投稿と同時に、入会金、年会費を納入した筆頭著者であること。また、会員は一つの増刊号あたり1編のファースト・オーサーとして投稿ができるものとする。原稿締め切りは、毎年3月1日とする。

(2) 投稿原稿の取扱い

投稿原稿は編集委員会で査読し、次のいずれかに取扱いを決定する。

- A. 採録
- B. 軽微な修正を要する条件付採録
- C. 照会後再判定を要する条件付採録
- D. 返戻

条件付採録の場合、照会后3週間以内に再稿が提出されない場合は、取り下げとみなす。

3. 投稿原稿の著作権について

本論文誌に採録決定された論文等(以下、論文とする)の著作権は、本学会に帰属する。

投稿に際しては、論文として採録された場合に当該原稿の著作権が本学会に帰属することを、著者全員が同意しているものとみなす。したがって投稿者は、共著者全員に本投稿規定を示し、この点に関する了解を得た上で投稿しなければならない。

採録後の掲載論文について、著者自身による学術教育目的等での利用(著者自身による編集著作物への転載、掲載、WWWによる公衆送信、外国語への翻訳、配布等を含む)を、学会は無条件で許諾する。

4. 原稿の扱いと費用負担

投稿原稿が受理されると、受領書が送付される。

返戻と決定した場合は、返戻の理由を付して、原稿を投稿者に返送する。

採録が決定した場合は、その旨を投稿者に通知し、最終原稿の電子ファイル(MS-WORD、一太郎、本文のみのテキストファイル)の提出を求める。

特別な電子ファイルで提出され、ファイル変換に費用が発生した場合は、投稿者の負担とする。

図表等の印刷について、特に費用を要するものは、投稿者の負担とする。

投稿原稿が掲載された場合は、少なくとも別刷100部の購入が義務付けられる。別刷料金は別に定める。ただし、原則の制限ページを超えた場合は超過料金を支払うこととする。

採録が決定された原稿は、著者校正を1回行う。この際印刷上の誤り以外の訂正、挿入等は認めない。

本誌に掲載された論文等の原稿は、返還しない。

第9期第4回理事会議事録

日 時：平成13年10月20日(土) 16:40~18:00

会 場：(社)日本教育工学振興会(JAPET)会議室

出席者：清水康敬会長、赤堀侃司・池田 央副会長、池田 満、伊藤紘二、大谷 尚、佐伯胖、坂元 昂、
正司和彦、菅井勝雄、鈴木克明、竹谷 誠、中山 実、中村紘司、前迫孝憲、村川雅弘、横山節雄、
吉崎静夫の各理事、小林事務局次長

1. 第9期第3回理事会議事録の承認

2. 会員の移動について

池田ひでみ君はじめ、計35名の入会(正会員10名、准会員4名、学生会員21名)、計2名(正会員1名、機関1件)の退会、計2名(学生会員へ2名)の種別変更を承認した。

3. 各種委員会の報告について

(1) 編集委員会

・赤堀担当理事より、論文誌編集状況と刊行予定についての報告があった。また、著作権を学会に帰属させるための投稿規定の整備や今後のスケジュール・準備についての説明があった。

(2) ニュースレター委員会

・竹谷委員長より、113号の発行と114号のスケジュールについての報告があった。また、過去の原稿についてWeb上に載せる場合は、著作権の事後承諾を得ることとした。

(3) 出版委員会

・伊藤委員長より、出版の案を検討中であることが報告された。

(4) 企画委員会

・大谷委員より、夏の合宿研究会、秋の産学共同セミナー、冬の合宿研究会についての報告があった。

(5) 研究会委員会

・菅井委員長より、研究会開催予定と委員会開催予定についての報告があった。

(6) 大会企画委員会

・伊藤委員長より、大会プログラムの発送と論文集の編集状況についての報告があった。
また、来年の全国大会は長岡技術科学大学で開催する、との報告があった。

(7) 学会ホームページ委員会

・池田委員長より、ニュースレターをホームページに掲載したとの報告があった。

(8) 顕彰委員会

・村川委員長より、研究奨励賞・論文賞の第2次投票結果についての報告があった。研究奨励賞3名、論文賞該当者なし、との報告がありこれを承認した。

(9) 総務

・会長より、総務の役割について検討するよう依頼があった。

(11) 会計

・理事会の会議出席交通費申請書に記入し、提出することとした。

4. その他

・(社)日本工学教育協会より、連合講演会の共催と講師の依頼があり、伊藤理事を推薦することとした。

・国立情報学研究所長に学協会情報発信サービス利用承認書を送付した、との報告があった。

・国際交流基金日本国際語センターより、インターネット公開の依頼を承認した。

・平成14年度の科研費申請についての報告があり、了承した。

・次回開催 第9期5回 平成13年11月23日(金) 12:00~13:30

第9期6回 平成13年12月 8日(土) 15:30~17:00

第9期第5回理事・評議員会議事録

日 時：平成13年11月23日（金） 12：00～13：30

会 場：鹿児島大学教育学部

出席理事：清水康敬会長、赤堀侃司副会長、池田 満、伊藤紘二、大谷 尚、岡本敏雄、正司和彦、菅井勝雄、
鈴木克明、園屋高志、竹谷 誠、永野和男、中村紘司、中山 実、南部昌敏、前迫孝憲、村川雅弘、
山西潤一、横山節雄、吉崎静夫、吉田貞介、小林事務局次長、関口一郎

評議員：赤倉貴子、生田孝至、大河原清、黒上晴夫、近藤 勲、澤本和子、三宮真智子、永岡慶三、
中村直人、野嶋栄一郎、東原義訓、堀田龍也、本間明信、松居辰則、村瀬康一郎

監 事：今榮国晴、水越敏行

1. 第9期第4回理事会議事録の承認

資料1に基づき、異議なくこれを承認した。

2. 会員の移動について

(1) 花井徹君初め、計12名の入会（正会員9名、准会員1名、学生会員2名）を承認した。

(2) 古田好治君（正会員1名）の退会を承認した。

・清水会長から、現在総会員数1920件（名誉会員2名、維持会員28団体、特殊会員6団体、
正会員1562名、准会員87名、学生会員205名）であるとの報告があった。

3. 来年度の総会について

・永野企画委員会委員長から、来年度の総会は、平成14年6月8日（土）、東京工業大学で開催予
定との報告があった。

4. 学会活動について

(1) 永野企画委員会委員長から、科学研究費研究成果公開促進費を申請する旨の報告があった。

(2) 園屋大会実行委員長から、挨拶があった。

(3) 中山理事と大谷理事より、論文の著作権帰属の問題から、投稿規定と審査基準の改定案を検討し、
平成14年6月の総会で審議する予定であるとの説明があった。

(4) 清水会長から、第16回奨励賞の受賞者3名の報告があった。

5. その他

(1) 清水会長から、ホームページによる情報発信についての提案があった。

(2) 清水会長から、論文発表などに関するデータベースの構築について提案があった。

(3) 赤堀編集委員会委員長から、論文誌の発行スケジュール等についての説明があった。

(4) 永野理事から、発表論文集の電子化を検討するワーキンググループを立ち上げの提案があった。

(5) 池田理事から、ホームページ委員会からの提案を次回の理事会で行いたいとの説明があった。

(6) 伊藤大会企画委員会委員長から、今回は、長岡技術科学大学で開催する旨の説明があった。

また、吉田理事から、次回理事会までには、大会企画委員会をスタートさせたいとの説明があった。

(7) 大会論文集の別刷り作成の是非について意見交換を行った。

(8) 大会論文集のCD-ROM化の提案があり、意見交換を行った。

・次回開催 平成13年12月8日（土） 15：30～17：00 JAPET会議室

大会論文集の購入について

昨年11月に鹿児島大学で開催されました第17回全国大会の論文集に残部があります。ご希望の方は振り込み用紙にご記入の上、以下の金額をご送金ください。入金を確認次第お送りします。

* 本学会では特にご要望が無い場合、請求書・領収証等を発行いたしておりませんので、必要な方はその旨ご記入ください。

4,500円 (論文集代4,000円、送料500円)

学会日誌

3月2日(土) 研究会「授業研究と教育評価」	(宮城教育大学)
3月16日(土)～17日(日) 冬の合宿研究会	(サンピア浜松)
5月25日(土) 研究会「教育のIT化とメディアリテラシーの育成」	(大分県立芸術文化短期大学)
6月8日(土) 第18回通常総会とシンポジウム	(東京工業大学)
8月17日(土)～18日(日) 夏の合宿研究会	(セントヒル長崎 予定)
11月2日(土)～4日(月) 第18回全国大会	(長岡技術科学大学)

お問い合わせ先 (Eメールアドレス)

論文投稿に関するお問い合わせ・・・編集委員会 (jet-editor@japet.or.jp)

研究会の開催についてのお問い合わせ・・・研究会事務局 (jet-branch@nime.ac.jp)

ニューズレター編集に関するお問い合わせ・・・ニューズレター編集委員会

(jet-news@cs.takushoku-u.ac.jp)

その他の掲載記事に関するお問い合わせ・・・学会事務局 (jet-office@japet.or.jp)

ニューズレター編集委員会

編集長:坂元 昂, 編集委員長:竹谷 誠, 委員:松居 辰則, 佐々木 整

拓殖大学工学部情報工学科 FAX: 0426-65-1519 E-mail: jet-news@cs.takushoku-u.ac.jp

日本教育工学会ニューズレター No.115

発行日 2002年2月15日

発行人 清水 康敬

発行所 日本教育工学会事務局

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル)2階

TEL / FAX: 03-5251-2133

E-mail: jet-office@japet.or.jp

http://www.japet.or.jp/jet/

郵便振替 00180-0-111042